

看護学専攻専門科目教育要項

Nursing Science, Syllabus of the Special Subjects

平成21年度 第1学年

2009-2010 Prospectus for 1st year student

東京医科歯科大学医学部保健衛生学科

School of Health Sciences, Faculty of Medicine,
Tokyo Medical and Dental University

保健衛生学科の教育理念

本学科は豊かな教養と高い倫理観に裏付けられた医療人としての感性を有し、自ら学び研究し、創意工夫することができる人間の形成を目指す。その視点に立ち看護学、検査技術学の2つの領域において、それぞれの専門的領域の知識、技術を教授することにとどまらず、学際的視野に立ち自ら問題を提起し、これを解決する能力を備えた医療人を養成する。

看護学専攻の教育目的

人々の健康状態を生活や環境との関係で的確に判断し、人々の主体性や価値観を尊重する質の高い看護実務者を養成する。併せて将来の研究者、教育者および指導者につながる知識・技術・態度を養う。

看護学専攻の教育目標

- 1 人々の健康・生活・環境を相互に関連づけて、人々の主体性・価値観を尊重し、全人的な生活者として理解し、健康に関わる生活援助の知識と技術を修得する。
- 2 看護の対象となる個人および集団の健康段階に応じた看護上の問題を発見し、解決するための問題解決思考能力を修得する。
- 3 保健・医療・福祉に関連する他の職種とチームを組み、看護職の専門的役割を有効に発揮できる基礎的能力を修得する。
- 4 自己の知識や技術の向上を目指す研究的姿勢および倫理観に基づく行動を身につけ、看護実践に諸科学の知識と技術を応用できる能力を修得する。

看護学専攻のカリキュラムの特色

保健衛生学科看護学専攻のカリキュラムは、保健衛生学科の教育理念、看護学専攻の教育目的、教育目標に沿って編成されており、以下の点を特色としている。

1) 第1学年では、豊かな教養と学際的な視野に立ち、自らの関心に沿って自己学習できる能力を身に付けるための基盤づくりに重点を置いている。そのため、教養部の教養科目と並行して、看護学専門科目の基礎看護学Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰ、看護心理学、看護の実践と統合Ⅰを開講し、看護学を学ぶ基盤づくりを行う。

2) 第2学年では、看護学の学習に関連の深い専門基礎科目として、人の形態・構造や機能を理解するとともに、看護の科学的根拠となる学際的な知識を学ぶ。専門基礎科目は、専門基礎分野と専門共通分野の科目によって構成する。専門基礎分野では、解剖学、生理学、生化学、薬理学Ⅰ・Ⅱ、微生物学、栄養学、病態学を開講する。また、専門基礎合同演習は、これらの科目について学ぶ上で基礎となる幅広い知識や技術の習得を目的とする科目であり、本学科の特徴を生かした実技中心の科目である。この他に、専門基礎分野では、第3学年に開講する必修科目の疫学と、第2、3学年必修、第4学年選択の英文購読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲがあり、国際的に活躍できる人材の育成を目指し、語学力の向上にも力を注いでいる。また、専門共通分野では第2学年で必須科目の医療情報学、第3、4学年で保健福祉に関連する科目を開講する。

3) 看護学の専門科目は、すべて専門領域別分野ごとに開講する。基礎看護学分野は第1学年から第2学年に基礎看護学科目を開講し、看護学に共通する基盤づくりを行う。第2学年から第3学年にかけては、成人看護学分野、精神看護学分野、小児看護学分野、在宅看護学分野で、より専門性の高い講義、演習を行う。そして、母性看護学分野、および老年看護学分野の講義・演習は第3学年に集中的に開講する。また第4学年では地域看護学や看護の統合と実践Ⅱを開講する。それぞれの科目では、看護に必要な知識、技術、態度を養成するとともに、自ら問題を提起し、解決する能力を備えた医療人養成を目指し、DVD等の視聴覚教材、グループワーク、討論、演習、e-learning等を効果的に活用する。

4) 保健師資格取得に必要な単位は第3学年から第4学年に開講する。地域看護学分野の講義・演習と、専門共通分野の保健統計学、産業保健学、保健医療福祉制度論、保健医療福祉制度論演習を開講する。また、4年次では国際保健看護学の講義を行い、グローバルな視点を養う。

5) 臨地実習は学習の段階に応じて、すべての学年で行う。第1学年は体験型実習の基礎看護学実習Ⅰ、第2学年は基礎看護学実習Ⅱを行う。また、第3学年では、成人看護学実習Ⅰ、精神看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、老年看護学実習、在宅看護学実習を行ない、分野別のより専門性の高い実践能力を養う。さらに、第4学年では、地域看護学実習と、実践に即した成人看護学実習Ⅱ・看護の統合と実践実習を行なう。臨地実習では、看護職に求められる看護実践能力の習得にとって欠かせない看護技術項目についてのチェックリストを活用し、学生自ら学習機会を作っていく努力が求められる。

6) 第3学年に開講する卒業論文Ⅰでは、各教員から具体的な研究方法論について学ぶ。続く第4学年の卒業論文Ⅱでは、看護学の学習を通して関心をもった領域やテーマについて、専門分野の教員から少人数制による指導を受けながら、卒業論文を作成する。この科目では、自己の知識や技術の向上を目指す研究的姿勢を身につけ、論理的思考能力とそれを表現するリテラシー能力の向上を目指している。

目 次

専門教育科目を学ぶにあたって	1
平成21年度連携教育科目・専門科目時間割	2
基礎看護学Ⅰ	3
基礎看護学実習Ⅰ	4
看護心理学	5
看護の統合と実践Ⅰ	7
学生周知事項	9
講義室一覧	17

【参 考】

東京医科歯科大学学則（抜粋）	19
東京医科歯科大学医学部履修規則	23
保健衛生学科(看護学専攻)教育課程	26
東京医科歯科大学医学部試験規則	27
医学部保健衛生学科レポート書式（見本）	29
専任教員一覧	31

専門教育科目を学ぶにあたって

皆さんは、一年間の教養教育を通して本学の学生に望まれる基本理念『自ら問題を提起し、それらを自らの工夫によって解決できる』の素地を身につけて進学されました。これから、いよいよ看護学の専門教育の学習が始まりますが、その前に、ぜひこの要項に記載されている『保健衛生学科の教育理念』、『看護学専攻の教育目的』、『看護学専攻の教育目標』を熟読し、十分に理解をしてください。ここに書かれた内容は、皆さんがこれから学習する専門教育の成果として、卒業時まで身につけることが期待されている内容だからです。

専門教育は、はじめに人体の正常な構造や機能、人体の病気に関わる原因や病態など、看護を展開するための土台となる専門基礎分野、基礎医学的知識を習得します。これらの科目は独立した科目ではなく、相互に密接に関わり合っているため、総合して体系的に理解することが必要とされます。

専門基礎分野の学習が進むと、次のステップとして専門分野の教育が始まります。ここでは専門基礎分野で学んだ知識を土台として、生活者としての人間の健康を保持、増進する看護学の理論と実践を学びます。専門分野の教育は、知識と技術の習得だけではなく、医療人、専門職業人にふさわしい態度、行動を、講義ならびに実習をとおして学ばなければなりません。教養教育、専門基礎教育、専門教育における学習を統合し、さらに課外活動における経験などを通して、医療人、専門職業人としてあるべき姿を模索し、自らの理想に近づく努力をしてください。

専門教育は本教育要綱に示すように、各指導教員がシラバスをふまえて体系的に教授します。専門教育内容の習得には、毎回の授業出席に加え、予習、復習が不可欠です。また、遅刻、早退、欠席や、授業中に集中力を欠いている場合には、それを補うために多大な努力を要し、3年間で履修することは困難といわざるを得ません。

基礎知識と技能を有し、論理的、科学的に問題を解決できる能力を習得するにとどまらず、患者および家族から、信頼される看護師、保健師として専門性と倫理観あふれる感性を身につけることを心から望んでいます。

東京医科歯科大学医学部保健衛生学科

教育委員会委員長

看護学専攻 平成21年度連携教育科目・専門科目時間割

前期

日時	8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:20～17:50
4/14 火		※11:00～13:00 保健管理センター抗体検査	※13:00～15:00 カリキュラム提示・基礎看護学Ⅰ－1 (宮本・齋藤)第1ゼミナール室(5号館3階)	※15:00～17:00 白衣・ナースシューズの説明・試着・注文 (齋藤)Ⅰ期棟7階実習室2	
4/21 火	生物学基礎－1 (和田)B棟症例検討室	生物学基礎－2 (和田)B棟症例検討室	医療人間学概論(法学)－1 (森本)B棟症例検討室	看護心理学－1 (宮本)B棟症例検討室	基礎看護学Ⅰ－2 (齋藤)Ⅰ期棟7階講義室4
4/28 火	生物学基礎－3 (和田)B棟症例検討室	生物学基礎－4 (和田)B棟症例検討室	医療人間学概論(法学)－2 (森本)B棟症例検討室	看護心理学－2 (宮本)B棟症例検討室	基礎看護学Ⅰ－3 (齋藤)Ⅰ期棟7階講義室4
5/12 火	生物学基礎－5 (和田)B棟症例検討室	生物学基礎－6 (和田)B棟症例検討室	医療人間学概論(法学)－3 (森本)B棟症例検討室	看護心理学－3 (宮本)B棟症例検討室	基礎看護学Ⅰ－4 (齋藤)Ⅰ期棟7階講義室4
5/19 火	医療人間学概論(心理学)－1 (山崎)B棟症例検討室	医療人間学概論(心理学)－2 (山崎)B棟症例検討室	医療人間学概論(法学)－4 (森本)B棟症例検討室	看護心理学－4 (宮本)B棟症例検討室	基礎看護学Ⅰ－5 (齋藤)Ⅰ期棟7階講義室4
5/26 火	医療人間学概論(心理学)－3 (山崎)B棟症例検討室	医療人間学概論(心理学)－4 (山崎)B棟症例検討室	医療人間学概論(法学)－5 (森本)B棟症例検討室	看護心理学－5 (宮本)B棟症例検討室	基礎看護学Ⅰ－6 (齋藤)Ⅰ期棟7階講義室4
6/2 火	医療人間学概論(心理学)－5 (山崎)B棟症例検討室	医療人間学概論(心理学)－6 (山崎)B棟症例検討室	医療人間学概論(法学)－6 (森本)B棟症例検討室	看護心理学－6 (宮本)B棟症例検討室	基礎看護学Ⅰ－7 (齋藤)Ⅰ期棟7階講義室4
6/9 火	医療人間学概論(心理学)－7 (山崎)B棟症例検討室	医療人間学概論(心理学)－8 (山崎)B棟症例検討室	医療人間学概論(法学)－7 (森本)B棟症例検討室	看護心理学－7 (宮本)B棟症例検討室	基礎看護学Ⅰ－8 (齋藤)Ⅰ期棟7階講義室4
6/16 火	体験型学習(施設見学)				
6/23 火	体験型学習報告会(田中)B棟症例検討室		医療人間学概論(法学)－8 (森本)B棟症例検討室	看護心理学－8 (宮本)B棟症例検討室	
6/30 火	生命科学特論B－1 (和田)歯学部第4講義室	生命科学特論B－2 (和田)歯学部第4講義室	バイオエシックス概説－1 (田中)B棟症例検討室	バイオエシックス概説－2 (田中)B棟症例検討室	
7/7 火	生命科学特論B－3 (和田)歯学部第4講義室	生命科学特論B－4 (和田)歯学部第4講義室	バイオエシックス概説－3 (田中)B棟症例検討室	バイオエシックス概説－4 (田中)B棟症例検討室	
7/14 火	生命科学特論B－5 (和田)歯学部第4講義室	生命科学特論B－6 (和田)歯学部第4講義室	バイオエシックス概説－5 (田中)B棟症例検討室	バイオエシックス概説－6 (田中)B棟症例検討室	
7/21 火	生命科学特論B－7 (和田)歯学部第4講義室	生命科学特論B－8 (和田)歯学部第4講義室	バイオエシックス概説－7 (田中)B棟症例検討室	バイオエシックス概説－8 (田中)B棟症例検討室	
平成21年8月3日(月)～8月6日(木) 基礎看護学実習Ⅰ(齋藤)Ⅰ期棟18F講義室1、17F実習室(医学部附属病院、歯学部附属病院において実習)					
9/15 火	生命科学特論B－9 (和田)歯学部第4講義室	生命科学特論B－10 (和田)歯学部第4講義室	バイオエシックス概説－9 (田中)B棟症例検討室	バイオエシックス概説－10 (田中)B棟症例検討室	
前期試験	平成21年7月22日～7月31日(生命科学特論B試験を平成21年9月16日～9月18日の間に実施予定)				
夏季休業	平成21年8月7日～9月11日				

後期

日時	8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:20～17:50
9/29 火	化学基礎－1 (岡崎)A棟臨床講堂	基礎生命科学(生物学)B－1 (服部)歯学部第4講義室	医療人間学概論(倫理学)－1 (藤井)A棟臨床講堂	医療人間学概論(倫理学)－2 (藤井)A棟臨床講堂	看護の統合と実践Ⅰ－1 (深堀)Ⅰ期棟8階講義室2
10/6 火	化学基礎－2 (岡崎)A棟臨床講堂	基礎生命科学(生物学)B－2 (服部)歯学部第4講義室	医療人間学概論(倫理学)－3 (藤井)A棟臨床講堂	医療人間学概論(倫理学)－4 (藤井)A棟臨床講堂	看護の統合と実践Ⅰ－2 (深堀)Ⅰ期棟8階講義室2
10/13 火	化学基礎－3 (岡崎)A棟臨床講堂	基礎生命科学(生物学)B－3 (服部)歯学部第4講義室	医療人間学概論(倫理学)－5 (藤井)A棟臨床講堂	医療人間学概論(倫理学)－6 (藤井)A棟臨床講堂	看護の統合と実践Ⅰ－3 (深堀)Ⅰ期棟8階講義室2
10/20 火	化学基礎－4 (岡崎)A棟臨床講堂	基礎生命科学(生物学)B－4 (服部)歯学部第4講義室	医療人間学概論(倫理学)－7 (藤井)A棟臨床講堂	医療人間学概論(倫理学)－8 (藤井)A棟臨床講堂	看護の統合と実践Ⅰ－4 (深堀)Ⅰ期棟8階講義室2
10/27 火	化学基礎－5 (岡崎)A棟臨床講堂	基礎生命科学(生物学)B－5 (服部)歯学部第4講義室	医療人間学セミナーⅠ(倫理学・心理学・法学)－1(藤井・山崎・丸)	医療人間学セミナーⅠ(倫理学・心理学・法学)－2(藤井・山崎・丸)	看護の統合と実践Ⅰ－5 (深堀)Ⅰ期棟8階講義室2
11/10 火	化学基礎－6 (岡崎)A棟臨床講堂	基礎生命科学(生物学)B－6 (服部)歯学部第4講義室	医療人間学セミナーⅠ(倫理学・心理学・法学)－3(藤井・山崎・丸)	医療人間学セミナーⅠ(倫理学・心理学・法学)－4(藤井・山崎・丸)	看護の統合と実践Ⅰ－6 (深堀)Ⅰ期棟8階講義室2
11/17 火	化学基礎－7 (岡崎)A棟臨床講堂	基礎生命科学(生物学)B－7 (服部)歯学部第4講義室	医療人間学セミナーⅠ(倫理学・心理学・法学)－5(藤井・山崎・丸)	医療人間学セミナーⅠ(倫理学・心理学・法学)－6(藤井・山崎・丸)	看護の統合と実践Ⅰ－7 (深堀)Ⅰ期棟8階講義室2
11/24 火	化学基礎－8 (岡崎)A棟臨床講堂	基礎生命科学(生物学)B－8 (服部)歯学部第4講義室	医療人間学セミナーⅠ(倫理学・心理学・法学)－7(藤井・山崎・丸)	医療人間学セミナーⅠ(倫理学・心理学・法学)－8(藤井・山崎・丸)	看護の統合と実践Ⅰ－8 (深堀)Ⅰ期棟8階講義室2
12/1 火	化学基礎－9 (岡崎)A棟臨床講堂	基礎生命科学(生物学)B－9 (服部)歯学部第4講義室	医療人間学セミナーⅡ(倫理学・心理学・法学)－1(藤井・山崎・丸)	医療人間学セミナーⅡ(倫理学・心理学・法学)－2(藤井・山崎・丸)	看護の統合と実践Ⅰ－9 (深堀)Ⅰ期棟8階講義室2
12/8 火	化学基礎－10 (岡崎)A棟臨床講堂	基礎生命科学(生物学)B－10 (服部)歯学部第4講義室	医療人間学セミナーⅡ(倫理学・心理学・法学)－3(藤井・山崎・丸)	医療人間学セミナーⅡ(倫理学・心理学・法学)－4(藤井・山崎・丸)	看護の統合と実践Ⅰ－10 (深堀)Ⅰ期棟8階講義室2
12/15 火	化学基礎－11 (岡崎)A棟臨床講堂	基礎生命科学(生物学)B－11 (服部)歯学部第4講義室	医療人間学セミナーⅡ(倫理学・心理学・法学)－5(藤井・山崎・丸)	医療人間学セミナーⅡ(倫理学・心理学・法学)－6(藤井・山崎・丸)	看護の統合と実践Ⅰ－11 (深堀)Ⅰ期棟8階講義室2
12/22 火	化学基礎－12 (岡崎)A棟臨床講堂	基礎生命科学(生物学)B－12 (服部)歯学部第4講義室	医療人間学セミナーⅡ(倫理学・心理学・法学)－7(藤井・山崎・丸)	医療人間学セミナーⅡ(倫理学・心理学・法学)－8(藤井・山崎・丸)	看護の統合と実践Ⅰ－12 (深堀)Ⅰ期棟8階講義室2
1/12 火	生命科学特論C－1 (森井)歯学部第4講義室	生命科学特論C－2 (森井)歯学部第4講義室	看護の統合と実践Ⅰ－13(深堀) 13:00～14:30 Ⅰ期棟8階講義室2	看護の統合と実践Ⅰ－14(深堀) 14:40～16:10 Ⅰ期棟8階講義室2	
1/19 火	生命科学特論C－3 (森井)歯学部第4講義室	生命科学特論C－4 (森井)歯学部第4講義室	看護の統合と実践Ⅰ－15(深堀) 13:00～14:30 Ⅰ期棟8階講義室2	看護の統合と実践Ⅰ－16(深堀) 14:10～16:10 Ⅰ期棟8階講義室2	
1/26 火	生命科学特論C－5 (森井)歯学部第4講義室	生命科学特論C－6 (森井)歯学部第4講義室			
冬季休業	平成21年12月25日～平成22年1月8日				
火曜補講	平成22年2月2日、2月9日	2/9 8:50-10:20 生命科学特論C－7 (森井)歯学部第4講義室	2/9 10:30-12:00 生命科学特論C－8 (森井)歯学部第4講義室		
後期試験	平成22年2月10日～2月23日				
春季休業	平成22年2月24日～3月31日			※医療人間学セミナーⅠ・Ⅱ(倫理学)Ⅰ期棟5Fカンファレンス室4	
※	専門科目			医療人間学セミナーⅠ・Ⅱ(心理学)A棟臨床講堂	
				医療人間学セミナーⅠ・Ⅱ(法学)Ⅰ期棟5Fカンファレンス室3	

基礎看護学 I

Fundamental Nursing I

齋 藤 や よ い

1 科目の概要

基礎看護学では看護学専門科目に共通する知識と技術を学ぶ。基礎看護学 I は、看護学概論として、看護の本質となる「看護」「健康」「人間」「環境」の概念を理解し、看護の機能と役割、対象の全人的理解のための基礎的知識を養う。

2 教育方針・教育目標

看護の共通基盤となる看護の理論、概念・目的や、看護実践能力の基礎となる人間観、生活観、社会観、健康観、自然観とそれらの関連性について総合的に理解する。また、看護独自の機能と、保健医療チームの中での看護の役割と連携について理解する。

3 教育内容

回数	日 時	項 目	内 容	担当者
1	4/14(火) 4	オリエンテーション	看護と看護学	齋藤
2	4/21(火) 5	看護の概念	看護の概念と対象の理解	齋藤
3	4/28(火) 5	健康と環境	看護の機能 健康と環境の概念	齋藤
4	5/12(火) 5	看護の歴史	看護の歴史と今後の展望	齋藤
5	5/19(火) 5	看護理論	看護理論の分類 看護モデルの比較	齋藤
6	5/26(火) 5	看護ニーズ	看護の諸理論	齋藤
7	6/2(火) 5	看護技術	看護技術の定義 看護技術の定義と構成する要素と内容	齋藤
8	6/9(火) 5	保健医療の概念	保健医療の概念と看護活動－看護の実践の場	齋藤

〔単位〕 必修 1 単位

〔場所〕 4/14 5号館3階ゼミナール室1

4/21～ 保健衛生学講義室4（医歯学総合研究棟Ⅰ期棟7階）

4 教科書・参考書

V. ヘンダーソン（湯楨ます，他訳）：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会
坪井良子，松田たみ子編：考える基礎看護技術Ⅰ，看護技術の基本，ヌーヴェヒロカワ，2005
その他テーマに関連した参考図書を随時紹介

5 他科目との関連

看護学の独自性や看護の専門機能を理解するために、学習の基礎となる教養の自然科学系、社会学系の科目、特に人間科学、社会学、心理学、哲学などの学習が望ましい。

6 受講上の注意

看護学の基礎となる理論や概念を学ぶために、柔軟な思考力が必要となる。これまでの学習経験や生活体験、社会体験を踏まえ、幅広い分野の書物に触れ、社会情勢にも関心を持つことが望ましい。

7 成績評価方法

単元ごとのミニレポート、課題レポート、および出席状況により評価する。

基礎看護学実習 I（看護早期体験実習）

Early Exposure Practice

齋 藤 や よ い

1 実習の概要・目的

専門科目の学習の初期において、医療の現場を知り、健康障害をもった人々と直接関わることを通して、看護の機能と役割を理解する。また、本実習を通して、今後の学習への動機づけとする。

2 教育目標

- 1) 大学病院の概要と機能について知る。
- 2) 医学部、および歯学部附属病院の理念と病院組織の概要を知る。
- 3) 看護部の理念と基本方針を知る。
- 4) 病院の機能からみた構造上の特徴と、病院内での各部門の配置を知る。
- 5) 療養環境としての病棟・病室環境の特徴を知る。
- 6) 看護活動の場と看護の実際を知る。
- 7) 入院患者の特徴を知る。
- 8) 専門職の役割・連携を知る。
- 9) 学生間で体験を共有する。

3 実習内容・方法等

実習期間：8月3日(月)～8月6日(木)の4日間

場 所：保健衛生学講義室1（医歯学総合研究棟18階）、17階看護実習室
医学部附属病院および歯学部附属病院

単 位：必修1単位

（詳細については、後日配布する実習要項に提示します）

看護心理学

Nursing Psychology

宮 本 真 巳

1 科目の概要

心の健康と精神的援助の全容を概観し、看護実践の心理学的な基礎を築く。

2 教育方針・教育目標

心のしくみと働きについて理解を深めると共に、健康上の問題を抱える人々に精神的な援助を提供する上で欠くことのできない基本的な知識、技術、態度を養うことを学習の目標とする。そこでまず、人格診断、心理測定、自己分析の方法を自分自身に適用してみる。さらに、日常的に体験しているストレスや生活習慣について吟味し、自分自身の心と身体を素材にして健康と不健康、適応と不適応を区別できる判断力を磨く。また、リラクセーション技法、呼吸法等、心の健康の回復・維持・増進に有効と考えられる方法の一端を体験し、精神的な健康をめぐる援助について視野を広げる。こうした学習を通じて、セルフケア支援としての看護について基本的な考え方を身につける。

3 教育内容

回数	日 時	項 目	内 容	担当者
1	4/21(火) 4	心のしくみと心の健康	心のしくみと働き（知情意の区別と関連性）、人格の構造、人格と精神状態の評価方法(心理測定法)	宮本真巳
2	4/28(火) 4	環境への適応と不適応 (1)	人間と環境との相互作用（応答的な環境）、対人関係とコミュニケーション、心理的ストレスの発生、ストレス対処の過程と類型	宮本真巳
3	5/12(火) 4	環境への適応と不適応 (2)	心的外傷（トラウマ）の発生、生活習慣と嗜好行動(アディクション)、暴力的な対人関係（虐待、いじめ、DV）、精神疾患と脆弱性	宮本真巳
4	5/19(火) 4	心と人格の発達	エリクソンの発達図式、母子相互作用と乳幼児期の発達、青年期の挫折とアイデンティティ形成、中高年の危機と生涯発達	渡邊敦子
5	5/26(火) 4	ストレス・マネジメント	代替療法と統合医療(ホリスティックメディスン)、リラクセーション技法（呼吸法、漸進的筋弛緩法）	宮本真巳
6	6/2(火) 4	体験としての病	病気という体験(がん患者とその家族を中心に)、当事者同士の支え合い、病気の受容、病と共に生きるということ	鈴木厚子
7	6/9(火) 4	感性を磨く技法(1)	異和感の対自化、感情活用能力、カウンセリングと自己一致、フォーカシング、問題の明確化、意思決定支援	宮本真巳
8	6/23(火) 4	感性を磨く技法(2)	看護場面の再構成法（臨地実習の体験）、援助関係の形成、セルフケア支援としての看護	宮本真巳

〔単位〕 必修 1 単位

〔場所〕 B棟5階症例検討室、医歯学総合研究棟7階第4講義室

4 教科書・参考書

教科書(いずれも3学年まで使用)

日本精神科看護技術協会監修「改定 精神看護学」中央法規出版、2006

宮本真巳「感性を磨く技法1 看護場面の再構成」日本看護協会出版会、1995

参考書

宮本真巳「感性を磨く技法2 異和感と援助者アイデンティティ」日本看護協会出版会、1996

宮本真巳「感性を磨く技法3 セルフケアを援助する」日本看護協会出版会、1996

服部祥子「生涯人間発達論」医学書院、2000

リチャード・ラザルス（本明寛他訳）「ストレスの心理学」実務教育出版、1991

ユージン・ジェンドリン（村山正治訳）「フォーカシング」福村出版、1982

ダニエル・ゴールマン（土屋京子訳）「EQ—こころの知能指数」講談社、1995

5 他科目との関連

基礎看護学，精神看護学，精神看護学演習等の科目と関連する。

6 受講上の注意

自分自身の心と身体を学習素材とした体験学習を通じて，自己の内面に生じてくるどんな反応も“やさしく”受け入れてみることを糸口にして、看護職、医療職に求められる姿勢を築いて欲しい。

7 成績評価方法

人間理解，自己理解，援助関係、セルフケア等のテーマに関するレポートによって評価する。

看護の統合と実践 I

Integration of acquaintances for nursing practice I

深堀 浩樹

1 科目の概要

看護学の各分野で学ぶ内容の基礎として、チーム医療および他職種との協働が行われる様々な看護の場面を知り、広い視野に基づき看護を学んでいくための基本的な態度を身につける。

2 教育方針・教育目標

- 1) 様々な場面における看護のあり方について知る。
- 2) 生涯に渡り看護に携わっていくための態度を養う。

3 教育内容

回数	日 時	内 容	担当者
1	9/29(火) 5	オリエンテーション / 看護システムマネジメント学	深堀
2	10/6(火) 5	高齢者看護・ケアシステム開発学 / 精神保健看護学	山本 / 宮本
3	10/13(火) 5	健康教育学(産業保健) / リプロダクティブヘルス看護学	山見 / 大久保
4	10/20(火) 5	先端侵襲緩和ケア看護学 / 小児・家族発達看護学	井上 / 廣瀬
5	10/27(火) 5	在宅ケア看護学 / 地域保健看護学	本田 / 佐々木
6	11/10(火) 5	看護学における資料・文献の探し方 ①	図書館司書 深堀
7	11/17(火) 5	看護学における資料・文献の探し方 ②	図書館司書 深堀
8	11/24(火) 5	起業した看護職	中友美 (株)A-Line
9	12/1(火) 5	災害看護	石田千絵 (昭和大学)
10	12/8(火) 5	国際看護	小黒道子 (聖路加看護大学)
11	12/15(火) 5	観察・インタビューの方法(講義) 見学・インタビュー内容の検討(グループワーク)	深堀
12	12/22(火) 5	看護・医療職を対象とした業務見学・インタビュー(グループ別)	深堀
13, 14	1/12(火) 3, 4	発表資料作成(グループワーク)	深堀
15, 16	1/19(火) 3, 4	プレゼンテーション	深堀

*日時・内容は変更する場合があるので、掲示に注意。

〔単位〕 必修2単位

〔場所〕 保健衛生学講義室2 (医歯学総合研究棟I期棟8階)

4 教科書・参考書(予定)

- ・授業において必要な参考書は提示する。

5 他科目との関連

「看護の統合と実践」は、他の看護の専門分野と密接なかわりを持つ。今回学んだ内容は、今後学習予定の看護学の各科目と、将来的に関連付けられていくことが望ましい。

6 受講上の注意

内容・日時・場所については変更が生じうるので適宜掲示で確認すること。

7 成績評価方法

レポート、出席により評価する。

学生周知事項

学 生 周 知 事 項

1 連絡・通知

学生への全ての告示、通知、連絡(試験関係、休講、講義室変更、奨学金関係、健康診断、授業料の納付、呼び出し等)は、掲示により行いますので、見落としがないよう十分注意して下さい。
(医歯学総合研究棟2階ラウンジ横)

掲示板には、逐次、新しい掲示をするのでたえず注意し、1日に一回は掲示を見て、不利益を被らないよう心がけて下さい。

最近はメールなどによる連絡方法もありますが、あくまでも2階の掲示板が正式なものです。

2 電話等による学生の呼び出し等

電話等による学生の呼び出しは、緊急かつ重大な場合を除いて一切行わないので、各関係者に説明しておいて下さい。

3 学生証

学生証は、本学の学生である旨を証明するものです。

入学時に交付したものを**4年間使用**しますので、紛失・破損等のないよう大切に取扱って下さい。

また、定期試験受験時、通学定期券の購入時等に提示を求められたときに提示できるよう、常に携帯するようにして下さい。

(1) 再交付

学生証を紛失又は破損等した場合は、速やかに学務課に申し出て、再交付の手続きをとって下さい。

ICチップの入っていないネームプレートは無料、翌日再交付できますが、ICチップの入っている入館システムキーは再交付に2,200円必要です。また再交付まで約1ヶ月近くかかります。

(2) 返却

卒業、退学、除籍、又は有効期間が経過した場合は、速やかに学生証を学務課に返却して下さい。

4 証明書等

証明書等は、学務課にて発行するものと、自動発行機にて発行するものがあります。

(1) 学務課(受付時間:8:30~17:15)

次に掲げるものは、学務課で発行しますので証明書交付願を提出して下さい。

(交付は、原則として、提出のあった日の翌日の午後となります。)

①成績証明書

②調査書

③英文の在学証明書(交付に1週間程度要します。)

④通学証明書(交通機関から請求された場合に限る。)

バス及び鉄道の通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅又は大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入して下さい。

⑤実習用定期

卒業研究等により本学以外の地に通学する場合は、実習用定期の発行が可能な為、必要が生じた者は、学務課に申し出てください。

なお、鉄道会社の許可を受けるまでに1ヶ月程度要しますので留意してください。(例:4月から必要な場合は、2月中に手続きをとること。)

※その他:上記以外の証明書等については、個々に学務課に相談して下さい。

(2) 自動発行機(利用時間:8:30~18:00)

在籍証明書・卒業見込み証明書(第4学年在籍者)は、学生談話室(5号館3階)に設置されている[自動発行機]にて発行します。

(問い合わせ先)学生課(内線5074)

5 学生旅客運賃割引証(学割証)

- (1) 学生が課外活動又は帰省などでJR線を利用する場合、乗車区間が片道100kmを超えるときに旅客運賃の割引(2割)を受けることができます。

この制度は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とするもので、計画的に使用すること。(年間使用限度:10枚/人)

- (2) 次に掲げる行為があったときは、普通運賃の2倍の追徴金を取られるばかりでなく、本学の全学生に対する学割証の発行が停止されることがありますので、乱用又は不正に使用することのないよう注意して下さい。

- ①他人名義の学割証を使って乗車券を購入したとき
- ②名義人が乗車券を購入し、これを他人に使用させたとき
- ③使用有効期間を経過したものを使用したとき

- (3) 学割証は、学生談話室(5号館3階)に設置されている「自動発行機」にて発行します。

(利用時間:8:30~18:00)

(問い合わせ先)学生課(内線5074)

6 住所・氏名等の変更

本人又は保証人の住所・本籍又は氏名等(電話番号を含む。)に変更が生じた場合は、速やかに学務課に申し出て所定の手続きをとって下さい。

この手続きを怠った場合、大学から本人又は保証人に緊急に連絡する必要があるが生じても連絡が取れないので注意して下さい。

7 休学, 復学, 退学, 欠席

- (1) 休学

病気その他の事由により、引き続き3ヶ月以上休学する場合又は休学期間を延長する場合は、「休学願」を学務課に提出し、学長の許可を受けて下さい。(病気の場合は、医師の診断書を添付して下さい。)

また、休学期間を延長する場合についても、休学する場合と同様に「休学期間延長願」により学長の許可が必要となります。

なお、休学(延長を含む。)するにあたっては、事前に「学年担当教員」又は「グループ担当教員」と面談し、**休学事由及び休学によって生じる修学上の諸問題等**について十分相談して下さい。

また、休学を許可される期間は、**在学期間内通算して2年を超えることができません**。(特別の事情があると学長が認めたときは、更に1年以内の休学を許可することがありますので、事前に学務課に相談してください。)

- (2) 復学

休学している学生が、休学許可期間の途中又は満了時に復学を希望する場合は、復学願(保証人連署)を学務課に提出し、学長の許可を受けて下さい。(病気を事由に休学した場合は、医師の診断書を添付して下さい。)

- (3) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、退学願(保証人連署)を学務課に提出し、学長の許可を受けて下さい。

なお、退学するにあたっては、事前に学年担当教員、グループ担当教員と面談し、退学事由等について十分相談して下さい。

- (4) 授業の欠席

病気その他特別な事情により授業を欠席する(した)場合は、欠席届を学務課に提出して下さい。(病気の場合は、診断書を添付して下さい。)

8 ロッカーの貸与

各人にロッカー(在籍中は、同じロッカーを使用)を貸与します。

教室及びロッカー室内での盗難が多発しているため、貴重品等の管理は厳重にして下さい。

また、各人の責による備品等の破損については、各人の負担により現状に復して下さい。

9 授業中(大学行事, 課外授業を含む。)の本人及び賠償責任が伴う事故等

入学時に加入した「学校教育災害傷害保険」(学研災)及び「医学生教育研究賠償責任保険」(医学賠)の対象となります。

(詳細は「学生生活の手引」参照)

なお、**針刺し事故(B型・C型肝炎)**が起こった場合は、人事課職員掛(1号館2階:内線5020)へ連絡のうえ指示を受けた後、学務課に事故報告書を提出して下さい。

ただし、他人に対する針刺し事故については上記の「医学賠」保険の対象となります。

10 遺失物及び拾得物

学内での遺失物又は拾得物の届出は以下のとおりとなります。

- (1) 講義室, 実習室, ロッカー室内……医学部学務課(医歯学総合研究棟3階:内線5119)
- (2) 上記(1)以外……医学部総務課(医科新棟A棟1階:内線5096)

11 その他

- (1) クラブ, サークル等宛の郵便物等は、学生課の窓口で保管していますので、責任者は適宜確認して下さい。なお、個人宛の郵便物等は、特別の場合を除き大学に配達されることがないようにお願いします。

(2) 事務上の窓口

- ① 教務事務……医学部学務課学務第二掛(医歯学総合研究棟3階:内線5119)
- ② 授業料の納入……経理部経理課収入管理掛(1号館1階:内線5042)
- ③ 奨学金・授業料免除……厚生課(1号館1階:内線5077)
- ④ 針刺し事故……人事課職員掛(1号館2階:内線5020)

諸 様 式

- 1 **証明書交付願**（自動発行機にて発行しているものを除く。）
証明書は、原則として請求日の翌日の午後以降発行する。（英文によるものを除く。）
- 2 **住所・本籍地変更届**
- 3 **改姓届（戸籍抄本添付）**
- 4 **保証人変更届**
- 5 **学生証紛失届・再交付願**
- 6 **紛失届**
講義室、実習室、ロッカー室内での紛失物に関する届出
- 7 **授業欠席届**（病気の場合は「診断書」、忌引きの場合は「会葬状」添付）
病気その他特別な事情により授業を欠席する場合に提出
- 8 **再試験申請書**（未提出者は、権利を喪失するので必ず提出すること。）
定期試験不合格者は、再試験実施日の7日前までに学務課に提出
- 9 **再試験欠席届**
病気その他特別な事情により再試験を欠席した場合に提出
- 10 **追試験申請書**（未提出者は、権利を喪失するので必ず提出すること。）
病気、その他やむを得ない理由により定期試験を欠席したものは、当該定期試験終了後5日以内に学務課に提出
- 11 **休学願**
グループ担当教官又は学年担当教官の面談後、専攻主任の面談(押印)を受けてから提出
(緊急時等で専攻主任が不在の場合は、教育委員長の面談で可)
- 12 **休学期間延長願**
グループ担当教官又は学年担当教官の面談後、専攻主任の面談(押印)を受けてから提出
(緊急時等で専攻主任が不在の場合は、教育委員長の面談で可)
- 13 **復学願**
グループ担当教官又は学年担当教官の面談後、専攻主任の面談(押印)を受けてから提出
(緊急時等で専攻主任が不在の場合は、教育委員長の面談で可)
- 14 **退学願**
グループ担当教官又は学年担当教官の面談後、専攻主任の面談(押印)を受けてから提出
(緊急時等で専攻主任が不在の場合は、教育委員長の面談で可)
- 15 **聴講願**
単位を取得する事は出来ないが、もう1度受講したいと思う科目がある際に提出

平成 年 月 日

保証人（住所）変更届出

経理責任者
国立大学法人 東京医科歯科大学経理部長 殿

平成 年度入学 第 学年

学 部 学 科
研 究 科
附属学校名 専攻名

学籍番号 第 号
氏 名

☐ 連帯保証人（父母等）住所に変更がありましたのでお届けします。

変更前	
変更後	〒 - 番 ()

☐ 連帯保証人を変更しましたのでお届けします。

変更前	
変更後	<p>上記の者の授業料債務について本人と連帯して、履行の責を負うことを保証します。</p> <p>連帯保証人 フリガナ 氏 名 (学生との関係：)</p> <p>住 所 〒 - 番 ()</p>

(該当する項目の□に、✓してください。)

医学部長	事務部長	次 長	課 長	課長補佐	掛 長	掛 員
専	専	専				

学生証紛失届・再交付願

平成 年 月 日

東京医科歯科大学長 殿

☐ 医学部医学科 第 学年
☐ 医学部保健衛生学科 第 学年
(学専攻)
☐ 医学部医学科専攻生 (講座)
☐ 医学部保健衛生学科専攻生
(学専攻)

学籍番号

氏 名

生年月日 昭・平 年 月 日生

下記のとおり、学生証を紛失いたしましたので再交付方よろしくお願いたします。
 今後は、取り扱いに十分注意いたします。
 なお、紛失した学生証を発見したときは、直ちに返納いたします。

記

1. 日 時 : 平成 年 月 日 時 分頃

2. 場 所 :

3. 紛失したときの状況 (具体的に記入すること。)

※ 過去の学生証発行状況 (事務記入欄)
 再交付1回目 : 平成 年 月 日
 再交付2回目 : 平成 年 月 日
 再交付3回目 : 平成 年 月 日

注) 専攻生は、写真 (3×4 cm) 1枚を添付すること。

医学部長	事務部長	次 長	課 長	課長補佐	掛 長	掛 員
専	専	専				

紛 失 届

平成 年 月 日

医 学 部 長 殿

☐ 医学部医学科 第 学年
☐ 医学部保健衛生学科 第 学年
(学専攻)

学籍番号

氏 名

下記のとおり、紛失しましたのでお届けいたします。

記

1. 紛失日時 : 平成 年 月 日 時 分頃

2. 紛失場所 :

3. 紛失物 :

4. 連絡先

医学部長	事務部長	次 長	課 長	課長補佐	掛 長	掛 員
専	専	専				

授 業 欠 席 届

平成 年 月 日

医 学 部 長 殿

☐ 医学部医学科 第 学年
☐ 医学部保健衛生学科 第 学年
(学専攻)

学籍番号

氏 名

下記のとおり、授業を (欠席します / 欠席しました) のでお届けいたします。

記

1. 欠席期間 自 平成 年 月 日
 至 平成 年 月 日

2. 欠席理由 (病気による場合は、医師の診断書を添付すること。)

医学部長	事務部長	次長	課長	課長補佐	掛長	掛員
専	専	専				

再試験申請書

平成 年 月 日

医学部長 殿

☐ 医学部医学科 第 学年

☐ 医学部保健衛生学科 第 学年
(学専攻)

学籍番号

氏 名 _____

下記科目について、再試験の申請をしますのでよろしくお願いいたします。

記

申請科目名	担当教官名	申請科目名	担当教官名
1.		6.	
2.		7.	
3.		8.	
4.		9.	
5.		10.	

医学部長	事務部長	次長	課長	課長補佐	掛長	掛員
専	専	専				

再試験欠席届

平成 年 月 日

医学部長 殿

☐ 医学部医学科 第 学年

☐ 医学部保健衛生学科 第 学年
(学専攻)

学籍番号

氏 名 _____

下記のとおり再試験を欠席しましたのでお届けいたします。

記

1. 試験科目名 : _____ (教官名 : _____)

平成 年 月 日施行

2. 欠席理由 (病気による場合は、医師の診断書を添付すること。)

医学部長	事務部長	次長	課長	課長補佐	掛長	掛員
専	専	専				

追試験申請書

平成 年 月 日

医学部長 殿

☐ 医学部医学科 第 学年

☐ 医学部保健衛生学科 第 学年
(学専攻)

学籍番号

氏 名 _____

下記のとおり定期試験を欠席しましたので、追試験を施行してくださいよう
お願いいたします。

記

1. 試験科目名 : _____ (教官名 : _____)

平成 年 月 日施行

2. 欠席理由 (病気による場合は、医師の診断書を添付すること。)

休学願

平成 年 月 日

東京医科歯科大学長 殿

教授印

医学部 (科 第 学年
学専攻)

学籍番号

(フリガナ)
本人氏名 _____ 印

保証人氏名 _____ 印

下記のとおり休学したいので、ご許可くださいますようお願いいたします。

記

1. 休学理由

2. 休学期間 自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日 (ヶ月)

3. 休学中の連絡先

本人	〒 <input type="text"/> - <input type="text"/>	TEL. _____
保証人	〒 <input type="text"/> - <input type="text"/>	TEL. _____

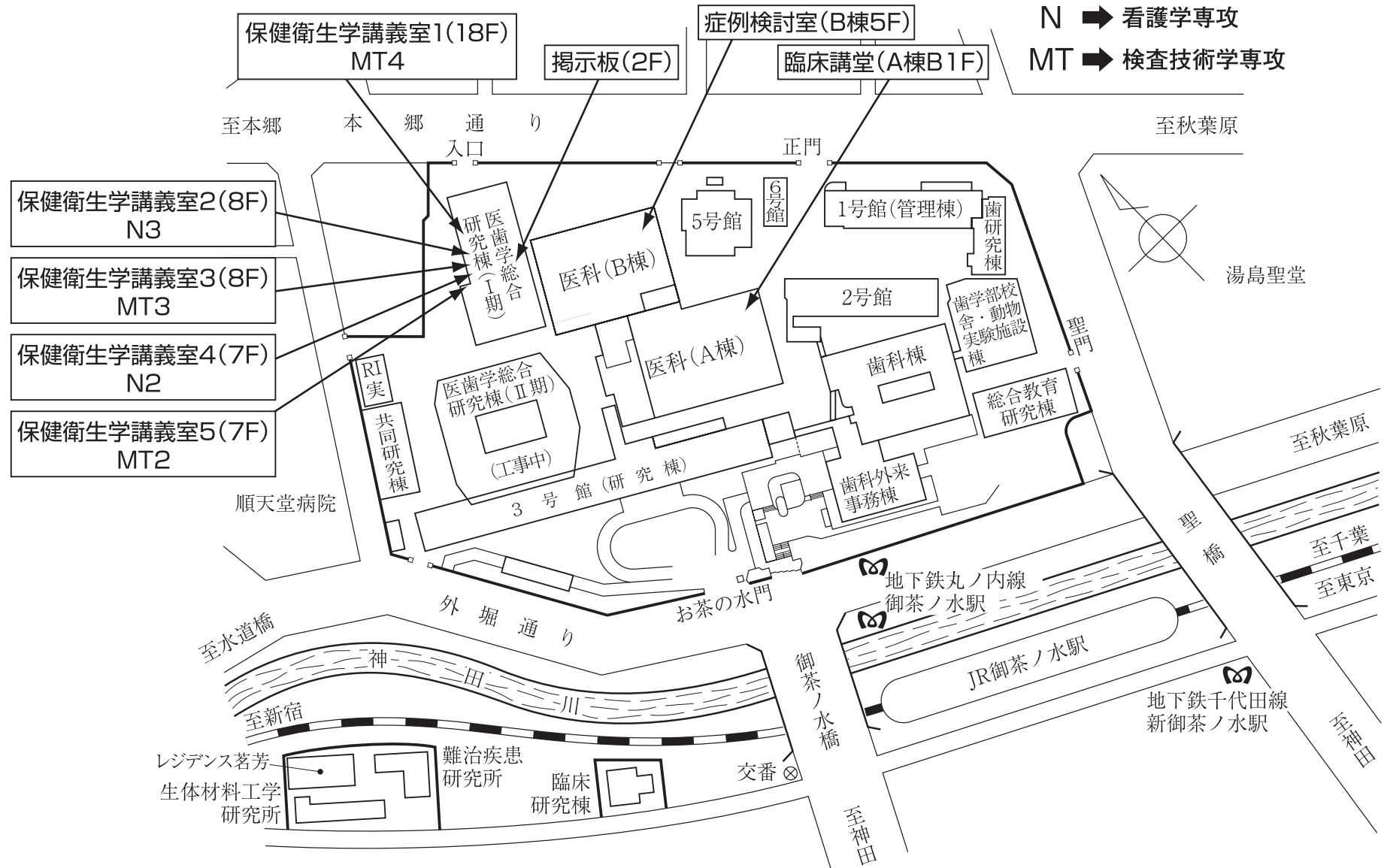
注) 1. 休学理由は、できるだけ具体的に記入してください。

2. 休学理由が、病気を理由とする場合は、医師の診断書を添付してください。

延滞票出納照会欄	
前期授業料	後期授業料
<input type="text"/>	<input type="text"/>

講義室一覽

○医学部保健衛生学科講義室等一覧



参 考

東京医科歯科大学学則（抜粋）

平成16年 4月 1日
規 程 第 4 号

第1章 総則

第1条 本学は、医学及び歯学の理論並びに応用を教授研究し、併せて人格の陶冶をなすものである。

第2条 本学に、国立大学法人東京医科歯科大学組織運営規程（平成16年規程第1号。以下「組織運営規程」という。）の定めるところにより、次の学部及び学科を置く。

医 学 部 医学科
 保健衛生学科
歯 学 部 歯学科
 口腔保健学科

2 医学部保健衛生学科に、看護学専攻及び検査技術学専攻を置く。

3 本学に、組織運営規程の定めるところにより、教養部を置く。

第3条 医学部医学科及び歯学部歯学科の修業年限は6年、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の修業年限は4年とする。

第4章 入学、休学、転学及び退学

第24条 学生は、病気その他の事由により引き続き3月以上休学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第25条 四大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修している者が協定大学に編入学するために休学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第26条 前2条による休学者で、休学期間中にその事由が消滅したときは、所定の手続きにより、復学の許可を学長に願い出ることができる。

第27条 休学期間は、通算して2年を超えることはできない。ただし、特別の事由があるときは、さらに1年以内の休学を許可することがある。

2 第25条の規定による休学期間には、前項の規定を適用しない。

3 休学した期間は、修業年限及び在学年限に算入しない。

第28条 学長は、学生が病気その他の事由により修学が不適当と認められるときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、休学を命ずることがある。

第29条 学生は、学長の許可なくして、他の大学、本学の他の学科又は専攻に入学を志願することはできない。

第30条 学生が転学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けるものとする。

2 前項の許可を与えたときは、退学とする。

第31条 学生が病気その他の事由で退学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出てその許可を受けるものとする。

第32条 医学部医学科及び歯学部歯学科の学生は10年を、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の学生は8年を超えて在学することができない。

2 編入学、転入学及び再入学により入学した者の在学年限は、各学部において定める。

第33条 学長は、学生が次の各号の一に該当するときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、退学を命ずることがある。

（1）学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(2) その他病気等の事由により、成業の見込みがないと認められる者

第5章 履修方法及び単位等

第34条 学生が授業科目を履修し、試験に合格したときは、所定の単位を与える。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を評価して試験によらずに単位を与えることができる。

第35条 前条に定める他、履修及び学習の評価方法については、各学部及び教養部において定める。

第36条 1単位の授業科目を、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、1単位当たりの授業時間を次の基準により、各学部及び教養部において定める。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の範囲

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の範囲

第37条 本学の教育上有益と認めるときは、本学に入学(編入学、転入学等を除く。)する前の大学(短期大学並びに外国の大学及び短期大学を含む。)において修得した単位を合計30単位を限度として、本学における授業科目の履修により修得したもののみみなすことができる。ただし、第3条に定める修業年限を短縮することはできない。

2 前項に係る手続き等については、各学部及び教養部において定める。

第6章 卒業及び学位

第39条 卒業の認定は、第3条に定める年限を在学し、かつ、第6条第3項に定める授業科目を、医学部医学科においては188単位以上、歯学部歯学科においては188単位以上、医学部保健衛生学科看護学専攻においては124単位以上、医学部保健衛生学科検査技術学専攻においては136単位以上、歯学部口腔保健学科においては131単位以上を修得した者に対し、当該学部教授会の議を経て学長が行う。

※(平成15年3月31日において現に本学に在学する者(以下「在学者」という。)及び平成15年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学、又は編入学する者については、この規定にかかわらず、なお従前の例(看護学専攻125単位、検査技術学専攻132単位)となります。)

第40条 前条による卒業者には、次の区分により学士の学位を授与する。

学 部	学科・専攻	学 位
医学部	医 学 科	学士(医 学)
	保健衛生学科	
	看護学専攻	学士(看護学)
歯学部	検査技術学専攻	学士(保健学)
	歯 学 科	学士(歯 学)
	口腔保健学科	学士(口腔保健学)

第7章 検定料、入学料及び授業料

第41条 授業料、入学料及び検定料の額については、別に定める。

第42条 入学志願者は、出願と同時に検定料を納付しなければならない。

第43条 授業料は、次の2期に分けて納付しなければならない。

前期 4月中

後期 10月中

2 前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。

3 入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、第1項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。

4 第1項の授業料納入の告知・督促は、所定の場所(医学部掲示板・歯学部掲示板・教養部掲示板)に掲示するものとする。

第44条 既納料金は、如何なる理由があっても返還しない。

2 第42条の規定に基づき徴収した検定料について、第1段階目の選抜で不合格となった者から返還の申出があったときは、前項の規定にかかわらず、第2段階目の選抜に係る額に相当する額を返還する。

3 前条第3項の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合には、第1項の規定にかかわらず、納付した者の申出により当該授業料に相当する額を返還する。

4 前条第2項及び第3項の規定に基づき授業料を納付した者が、後期分授業料の徴収時期以前に休学又は退学した場合には、第1項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を返還する。

第45条 本学に入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる者及び当該者に準ずる者であって、学長が相当と認める事由がある者については、本人の申請により、入学料の全額又は半額を免除することがある。

2 本学に入学する者であって、経済的理由によって納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、入学前1年以内において学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる者及びその他やむを得ない事情があると認められる者については、本人の申請により、入学料の徴収猶予をすることがある。

3 入学料の免除を申請した者で、免除を許可されなかった者又は半額免除を許可された者のうち、前項に該当する者は、免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に徴収猶予の申請をすることができる。

4 国立大学の受験機会の複数化に伴い、二つの国立大学学部（筑波大学にあっては学群）に合格した者のうち、他の国立大学学部に入學手続を行った後に、当該大学への入学を辞退し、本学が定める入学手続の変更可能な期限までに改めて本学への入学手続を行う者については、入学料を免除することができる。

5 前4項の取扱いについては、別に定める。

第46条 停学に処せられた者の授業料は徴収するものとする。

第47条 行方不明、その他やむを得ない事情がある者の授業料は本人又は保証人の申請により徴収を猶予することがある。

第48条 死亡又は行方不明のため除籍され、或は授業料の未納を理由として退学を命ぜられた者の未納の授業料は全額を免除することがある。

第49条 毎学期開始前に休学の許可を受けた者及び休学中に休学延期の許可を受けた者の休学中の授業料は免除する。ただし、各学期の途中で休学の許可を受けた者の授業料は、月割計算により休学当月の翌月から復学当月の前月までに相当する額を免除する。

2 各学期の途中で復学する者のその期の授業料は、復学当月から次の授業料徴収期の前月まで月割計算により復学の際徴収する。

第50条 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者及び学生又は学生の学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難と認められる者については、本人の申請により授業料の全額若しくはその一部を免除又は徴収猶予することがある。

2 前項の取扱いについては別に定める。

第51条 入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかった者又は半額免除を許可された者が、納付すべき入学料を免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に納付しない場合は、除籍する。ただし、第45条第3項の規定により徴収猶予の申請をした者を除く。

2 入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可されなかった者が、納付すべき入学料を徴収猶予の不許可を告知した日から起算して14日以内に納付しない場合は、除籍する。

3 入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可された者が、納付期限までに入学料を納付しない場合は、除籍する。

第52条 授業料を所定の期間内に納付しない者で、督促を受け、なおかつ怠る者は退学を命ずる。

2 前項の督促は文書をもってするものとする。

第11章 懲戒

第58条 学長は、学生が本学の諸規則に違反し、その他学生の本分に反する行為をしたときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、これを懲戒する。

- 2 懲戒は，退学，停学，訓告とする。
- 3 前項の退学は，次の各号の一に該当する者に対して行う。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学業を怠り成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 学内の秩序を著しく乱し，その他学生の本分に著しく反した者

東京医科歯科大学医学部履修規則

平成16年4月1日制定

(趣旨)

第1条 東京医科歯科大学医学部における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほかこの規則の定めるところによる。

(授業科目)

第2条 本学部の授業科目は、学則第6条第1項に定める全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

(全学共通科目の履修)

第3条 全学共通科目の履修については、東京医科歯科大学教養部履修規則（平成16年制定）に定めるところによるものとする。

(専門科目の履修)

第4条 専門科目の履修については、別表1に定める教育課程によるものとする。

(専門科目の履修要件)

第5条 全学共通科目を修了しなければ、専門科目を履修することができない。
ただし、医学科を除く。

(授業の方法)

第6条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修又は選択必修とする。

(1単位当たりの授業時間)

第7条 学則第34条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

(1) 医学科

ア 講義演習	22時間
イ 実習	45時間

(2) 保健衛生学科

ア 講義	15時間
イ 演習	30時間
ウ 実習	45時間
エ 臨地実習	
看護学専攻	45時間
検査技術学専攻	30時間

(編入学者、転入学者の単位認定等)

第8条 学則第12条から第16条までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び本学部専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については本学部において行うものとする。

3 入学を許可する学年及び履修方法等については、教養部と協議するものとする。

(再入学)

第9条 学則第19条第1項に規定する再入学は、本学部を退学した者が再度、原学科の原学年以下に入学することとする。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第10条 学則第12条から第16条まで及び第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可された学年までの経過学年数を減じた年数とする。

(試験)

第11条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、実験・実習を伴う授業科目及び試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 試験の方法及び学習の評価等については、教授会の議を経て、別に定める。

(進級等要件)

第12条 学生は、別表2に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学科にあっては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお、成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1項により退学を命ずることがある。

(卒業単位認定)

第13条 卒業に要する単位の認定については、教授会の議を経て、医学部長がこれを行う。

(補則)

第14条 この規程に定めるもののほか履修に関し必要な事項は、教授会の議を経て別に定める。

附 則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修についてはこの規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則（平成18年3月31日規則第9号）

この規則は、平成18年4月1日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

別表2

医 学 部 進 級 要 件

1 医学科
(略)

2 保健衛生学科（看護学専攻及び検査技術学専攻共通）

- (1) 2学年の必修科目（実習科目を除く。）のうち、単位未修得科目が4科目以上あるとき又は第2学年の必修科目となっている実習科目に単位未修得の科目があるときは、原則として、第3学年に進級することができない。
- (2) 第2学年及び第3学年の必修科目の単位をすべて修得しなければ、第4学年に進級することはできない。

保健衛生学科(看護学専攻)教育課程
(平成21年度1年生用)

授業科目		単位数		履修学年			
		必修	選択	1年	2年	3年	4年
専門基礎分野	解剖学	3			○		
	生理学	3			○		
	生化学	2			○		
	薬理学Ⅰ	1			○		
	薬理学Ⅱ	1			○		
	病理学	1			○		
	微生物学	1			○		
	栄養学	1			○		
	疫学	1				○	
	病態学	5			○		
	英文講読Ⅰ	1			○		
	英文講読Ⅱ	1				○	
	英文講読Ⅲ		1				○
専門共通分野	基礎合同演習	1			○		
	保健統計学	1					○
	医療情報学	1			○		
	国際保健看護学		1				○
	産業保健学	1					○
	保健医療福祉制度論	2					○
	保健医療福祉制度論演習	1					○
	卒業論文Ⅰ	1				○	
専門領域別分野	卒業論文Ⅱ	2					○
	基 看護 基礎看護学Ⅰ	1		○			
	基 看護 基礎看護学Ⅱ	1			○		
	基 看護 基礎看護学Ⅲ	1			○		
	基 看護 基礎看護学演習Ⅰ	2			○		
	基 看護 基礎看護学演習Ⅱ	1			○		
	基 看護 基礎看護学実習Ⅰ	1		○			
	基 看護 基礎看護学実習Ⅱ	2			○		
	成人看護学Ⅰ	2			○		
	成人看護学Ⅱ	2			○		
	成人看護学Ⅲ	1				○	
	成人看護学演習	1				○	
	成人看護学実習Ⅰ	3				○	
	成人看護学実習Ⅱ	1					○
	精神看護学	2			○		
	地域精神看護学	1				○	
	精神看護学演習	1				○	
	精神看護学実習	2				○	
	看護心理学		1	○			
	小児看護学Ⅰ	1			○		
	小児看護学Ⅱ	1				○	
	小児看護学演習Ⅰ	1			○		
	小児看護学演習Ⅱ	1				○	
	小児看護学実習	2				○	
	母性看護学Ⅰ	1				○	
	母性看護学Ⅱ	1				○	
	母性看護学Ⅲ	1				○	
	母性看護学演習	1				○	
	母性看護学実習	2				○	
	老年看護学	3				○	
	リハビリテーション看護学		1			○	
	老年看護学演習	1				○	
	老年看護学実習	3				○	
	地域看護学Ⅰ	1				○	
	地域看護学Ⅱ	1				○	
	地域看護学Ⅲ	2					○
	地域看護学演習	1					○
	地域看護学実習	3					○
	在宅看護学Ⅰ	1			○		
	在宅看護学Ⅱ	1				○	
	緩和ケア看護学		1				○
	在宅看護学演習	1				○	
	在宅看護学実習	2				○	
	看護の統合と実践Ⅰ	2		○			
	看護の統合と実践Ⅱ	2					○
	看護の統合と実践実習	2					○
	計	94	5				

東京医科歯科大学医学部試験規則

平成16年4月1日制定

(趣旨)

第1条 この規則は、東京医科歯科大学医学部履修規則（平成16年制定。以下「履修規則」という。）第11条第3項に基づき、医学部における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の試験に関し、必要な事項を定める。

(試験の種類)

第2条 試験は、定期試験、科目試験、共用試験、追試験及び再試験とする。

(試験の方法)

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口頭試験、実地試験のいずれかによって行う。

(定期試験)

第4条 定期試験とは、履修した授業科目について、定期に行う試験をいう。

2 定期試験は、当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。

3 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 定期試験を受験することのできる者は、次のとおりとする。

(1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者

(2) 実 習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者

(3) 医学科第6学年の定期試験は、次の授業科目の単位をすべて取得し、かつ、臨床実習Ⅱ及び臨床実習Ⅲの実習評価が60点以上の者

臨床解剖学、臨床実習関連講義、CPE、先端医学、基礎臨床総合講義

5 試験の結果は、可否をもって公示する。

(科目試験)

第5条 科目試験とは、原則として履修した授業科目の最終日に行う試験をいい、試験の実施日時は、当該年度の授業時間割に明記し、受験資格並びに試験の結果は、前条第4項第1号、第2号及び第5項のとおりとする。

(共用試験)

第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（以下「CBT」という。）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（以下「OSCE」という。）をいい、当分の間医学科において行う。

2 CBTは第4学年の前期末、OSCEは第5学年の臨床実習Ⅰ終了後に行う。

3 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 共用試験を受験することのできる者は次のとおりとする。

(1) CBT 第4学年に在学する者

(2) OSCE 臨床実習Ⅰを終了した者

5 試験の結果は、可否をもって公示する。

(追試験)

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により定期試験、科目試験又は共用試験（以下「定期試験等」という。）を受験できなかった者に対して、受験できなかった授業科目又は共用試験について行う試験をいう。

2 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、当該定期試験等終了後5日以内に医学部長に願い出て、許可を受けなければならない。

3 医学部長は、前項の申請について担当教員と協議のうえ、その可否を決定し、申請者に通知するものとする。

4 試験の結果は、可否をもって公示する。

(再試験)

第8条 再試験とは、定期試験等を受験し、不合格となった授業科目がある者又は共用試験が不合格となった者に対し、当該授業科目又は共用試験について、改めて行う試験をいう。

2 再試験の時期は、次のとおりとする。

(1) 医 学 科 定期試験 第6学年の学年末

科目試験 原則として第3学年は学年末、第4学年は12月

共用試験 CBTは第4学年の12月、OSCEは第5学年の夏季休業中

(2) 保健衛生学科 原則として、次の定期試験期間及び第4学年の学年末

3 再試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 再試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書により試験期日の7日前までに医学部長に願出しなければならない。

5 試験の結果は、可否をもって公示する。

(学習の評価)

第9条 定期試験、科目試験及び追試験並びに履修規則第11条第1項ただし書きによる成績については、授業科目ごとに担当教員が100点満点で採点し、次のとおり学習の評価を行う。

成績区分	評価区分	単位認定
100～80点	優	合 格
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

2 再試験の成績については、授業科目ごとに担当教員が採点する。ただし、成績は、60点を上限とする。

3 正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は、0点とする。

4 第1項及び第2項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。

5 共用試験の評価については、医学科教育委員会が別に定める。

(成績の報告)

第10条 担当教員は、定期試験、科目試験、追試験及び再試験について授業科目ごとに所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

2 医学科教育委員会委員長は、共用試験並びにそれに伴う追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

(罰則)

第11条 試験において、不正行為があったときは、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号）第58条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、試験等に関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は平成16年4月1日から施行する。

2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この規則の規定にかかわらずなお従前の例による。

医学部保健衛生学科レポート

感想の場合は、“感想「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」”と書く。

氏 名 山 田 花 子

山田 花子

産業保健の根幹を成す、産業の場で看護職が行う五管理について、その概要と業務の具体的事項を述べる。

- ・ 産業の場における看護職の五管理について
 - 1. 産業保健と五管理
 - 2. 作業環境管理
 - 3. 作業管理
 - 4. 健康管理
 - 5. 労働衛生教育
 - 6. 総括管理
 - 7. まとめ
 - 8. 参考文献

以下省略

※作成要領

1. レポート本文はワープロ打ちとする。
2. フォーマットはA4版・MS明朝体・10.5サイズとし、横44文字、縦32行で印字する。
3. すべてのページの1行目右上に氏名を記載し、最終行下欄にページ番号を付す。
※レポート本文のページ数、図、表、写真等の使用・貼付等については、担当教員の指示に従う。
4. 表題紙は、別様とする。
5. 書き出しは2行目2コマ目から始める。
6. 最後に引用文献及び参考文献の記載

※書式は、「お茶の水看護学雑誌」に準ずる。

<書き方例>

引用文献

- 1) 宮崎美砂子、春山早苗：最新地域看護学. 各論2. 日本看護協会出版会
; 2006 : 81-88.
- 2) 矢富有見子、井上智子：在宅酸素療法患者の食生活に対する認識と
行動に関する質的研究. 日本在宅ケア学会誌. 2004 ; 2 : 50-57.

専任教員一覧 TEL 03-5803-(内線〇〇〇〇)

【総合保健看護学】

教 育 研 究 分 野 名	氏 名	官 職	内 線	メ ー ル ア ド レ ス	部 屋 の 場 所
地域保健看護学	佐々木明子	教 授	5350	sasaki.phn@tmd.ac.jp	医歯学総合研究棟19F
	森田久美子	助 教	4573	morita.phn@tmd.ac.jp	〃 19F
	田沼 寮子	助 教	4573	tanuma.phn@tmd.ac.jp	〃 19F
在宅ケア看護学	本田 彰子	教 授	5355	ahonda.chn@tmd.ac.jp	〃 19F
	大木 正隆	講師	5884	mooki.chn@tmd.ac.jp	〃 19F
	山崎 智子	特任准教授	5356	tom-y.cc@tmd.ac.jp	〃 15F
	内堀 真弓	特任助教	5356	m.uchi.cc@tmd.ac.jp	〃 15F
リプロダクティブヘルス看護学	大久保 功子	教 授	5349	kouko.rhn@tmd.ac.jp	〃 19F
	三隅 順子	講 師	5357	j.misumi.rhn@tmd.ac.jp	〃 17F
	大田 えりか	特任助教	5347		〃 19F
精神保健看護学	宮本 真巳	教 授	5354	miyamoto.ns@tmd.ac.jp	〃 18F
	渡邊 敦子	助 教	5348	a.watanabe.pn@tmd.ac.jp	〃 18F
		技術補佐員	5348		〃 18F
生体・生活機能看護学	齋藤やよい	教 授	5345	ysaito.fnls@tmd.ac.jp	〃 18F
	大黒 理恵	助 教	5344	r.daikoku.fnls@tmd.ac.jp	〃 18F
	佐々木晶世	助教	5344	sakiahs@tmd.ac.jp	〃 18F
	後藤 孝子	教務補佐員	5344	t.goto.fnls@tmd.ac.jp	〃 18F
小児・家族発達看護学	廣瀬たい子	教 授	5342	tykocho.ns@tmd.ac.jp	〃 19F
	岡光 基子	助 教	4511	motoko.cfn@tmd.ac.jp	〃 18F
先端侵襲緩和ケア看護学	井上 智子	教 授	5351	tinoue.cc@tmd.ac.jp	〃 19F
	佐々木吉子	講 師	4507	y.sasaki.cc@tmd.ac.jp	〃 17F
	川本 祐子	助 教	5353	kawamoto.cc@tmd.ac.jp	〃 19F
高齢者看護・ケアシステム開発学	山本 則子	教 授	5358	nyamamoto.gh@tmd.ac.jp	〃 19F
	小林 小百合	助 教	5359		〃 19F
看護システムマネジメント学	深堀 浩樹	講 師	5352	hfukahori.kanr@tmd.ac.jp	〃 15F
健康情報分析学	佐藤 千史	教 授	5335	c.sato.ns@tmd.ac.jp	〃 18F
	佐久間夕美子	技術補佐員	4514	yumahs@tmd.ac.jp	〃 18F
健康教育学	山見 信夫	准教授	5337	yamami.ns@tmd.ac.jp	〃 15F
国際看護開発学	丸 光恵	教 授	5336	mitsue.cfn@tmd.ac.jp	〃 18F

【生体検査科学】

教 育 研 究 分 野 名	氏 名	官 職	内 線	メ ー ル ア ド レ ス	部 屋 の 場 所
分子生命情報解析学	原 諭吉	教 授	5364	y.hara.bb@tmd.ac.jp	医歯学総合研究棟16F
	赤澤 智宏	准教授	5362	c.akazawa.bb@tmd.ac.jp	〃
	伊藤さやか	特任助教	5375	sitobb@tmd.ac.jp	〃
形態・生体情報解析学	佐藤 健次	教 授	5361	k.sato.mtec@tmd.ac.jp	〃
	長 雄一郎	助 教	5376	y.cho.mtec@tmd.ac.jp	〃
生命機能情報解析学	松浦 雅人	教 授	5372	matsu.mtec@tmd.ac.jp	〃
	川良 徳弘	講師	5365	tkawara.mtec@tmd.ac.jp	〃
	原 恵子	助 教	5376	hrkeiko.bi@tmd.ac.jp	〃
生体機能支援システム学	若松 秀俊	教 授	5366	wakamats.mtec@tmd.ac.jp	〃
	本間 達	助 教	5367	hommttec@tmd.ac.jp	〃
先端分析検査学	戸塚 実	教 授	5374	mtozuka.alc@tmd.ac.jp	〃
	栗原由利子	助 教	5376	yuriko.ando.mtec@tmd.ac.jp	〃
生体防御検査学	岡村 登	教 授	5368	n.okamura.mtec@tmd.ac.jp	〃
	窪田 哲朗	准教授	5369	tetsuo.kubota.mtec@tmd.ac.jp	〃
	千田 俊雄	助 教	5375	t.chida.mtec@tmd.ac.jp	〃
分子病態検査学	滝澤登一郎	教 授	5370	takizawa.mp@tmd.ac.jp	休職中
	熊谷 二郎	准教授	5370	j.kuma.pth1@tmd.ac.jp	〃
	吉田 祥子	助 教	5375	yoshida.shoko.mp@tmd.ac.jp	〃
先端血液検査学	小山 高敏	准教授	5882	koyama.lmg@tmd.ac.jp	〃